



支援メニューはこちらを Click!

課題番号・課題内容

E3-1 構造最適化合成支援

大阪大学 産業科学研究所 複合分子化学研究分野 教授

すずき たかよし
鈴木 孝禎 先生
Takayoshi Suzuki

東京大学博士（薬学）、名古屋市立大学助手・助教・講師、京都府立医科大学教授を経て、2019年から現職。帰りの電車では、野球速報とにらめっこです。阪神優勝を願いつつ、前回のリーグ優勝から、はや18年。今年こそ。



今まで主に取り組んできた研究

学生時代は、基礎的な有機化学研究を行っていましたが、企業で創薬研究に携わって以来、大学に移ってからも、ずっと創薬化学研究を行っています。

最近、バイオ医薬品の台頭により、低分子医薬品の影が薄くなってきていますが、低分子でも、まだまだ出来る事がたくさんあるんじゃないかと考えています。BINDS では、低分子のポテンシャルを最大限に引き出せるような創薬研究を展開したいと思っています。

アカデミアでの研究の最大の魅力は、異分野融合研究のやりやすさだと思っています。異分野の研究者お互いのやる気さえあれば、障壁なく、異分野融合研究が開始できます。私の場合は、異分野融合研究が始まるのは、常に「飲みニケーション」の場です（最近の若者からは、嫌がられますが）。コロナ前の飲み会の場から始まった物理と化学の融合創薬研究が、コロナの期間に大きく進展しました。BINDS でも、異分野のユーザーからの飲み会の席で出てくるような突拍子もない提案を期待しています。ぜひ、ご相談ください。そこから、現在では予想だにしない薬が産まれることを期待しています。



この課題を支援しています

大阪大学
産業科学研究所 精密制御化学研究分野 教授
なかたに かずひこ
中谷 和彦 先生
Kazuhiko Nakatani

大阪市立大学理学博士、京都大学工学研究科助手・助教授を経て、2005年から現職。産研所長、大阪大学理事・副学長を歴任。着任以来、吹田キャンパスの産業科学研究所に自転車通勤しています。気ままに走れる自転車はいいですね。

今まで主に取り組んできた研究

学生時代やコロンビア大学（G. Stork 研）の研究員時代は、天然物の全合成研究を進めていました。また、目的の逆合成を実現するための反応開発も行っていました。相模中研（寺島研）でのポスドク時代に、DNA を切断する化合物「ネオカルチノスタチンクロモフォア」の全合成研究に携わったおかげで、低分子と核酸の相互作用研究に興味を持ち、以後、核酸に結合する低分子に関わる研究を 30 年以上続けています。

現在の取り組み、特に関心のある分野・研究

核酸標的的低分子創薬研究を我が国において加速するための研究を進めています。



この課題を支援しています

大阪大学
産業科学研究所 複合分子化学研究分野 准教授
いとう ゆきひろ
伊藤 幸裕 先生
Yukihiro Itoh

博士（薬学）。スクリップス研究所博士研究員、京都府立医科大学講師・准教授を経て、2020年より現職。学生時代に創薬研究に魅了されました。将来の薬に繋がる種を発見できたらと思い、創薬研究をしています。

現在の取り組み、特に関心のある分野・研究

私たちは、大学の研究者として創薬化学研究に挑戦しています。医薬品開発を志す創薬化学研究は、労力、多額の費用を必要とするため、どちらかと言えば企業向きの研究分野です。しかし、企業で行われているような従来の創薬化学にとらわれず、自由な発想を持って研究に取り組んでいます。斬新なアイデアから次世代型医薬品の開発につながるよう研究に励んでいます。

10年後の生命科学・創薬研究の世界への期待・想像

創薬研究のゴールは、医薬品を開発することです。しかし、医薬品開発には 10 数年という長い月日を要します。科学技術の発展により、よりスピーディーに研究を進め、少しでも早く、病に苦しむ人々の手に医薬品が届けられるようになることを期待しています。

